

## 「森の向こう側」

こわいけれど  
ひきこまれていく

闇の中にはゼロがあるから

こわいけれど  
よせられていく

森の中には闇があるから



初めて出会った時のお互いの印象は、恐かった(O M), ついていけない(M O)という二人が森をテーマに繋がった。

北欧の深い森と闇をモチーフにしている三星玲子と日本の深山幽谷をモチーフにしている小沢典子。

三星が毎日コツコツとひとつずつ緻密に製作するのに対し小沢は床に置いたキャンパスの上に本能のまま色を落としていく。表現の仕方、製作時間などをみても全く別の方向に進んでいたつもりの二人。

しかし、作品の奥側に潜んでいるもの、二人が感じていたものは実はとても近かったという発見。

この発見の喜びから『シンリンサンポ』は生まれたのだという。

### QUESTION

製作する時に心がけていることはありますか？

O:最後の詰めを控える。

M:製作の際食べ物を絶やさない。

描く(創る)ことってなんですか？

O:自分に対する癒し

M:トイレに行くことと同じ

初めて会う人のどこを一番注目しますか？

O:敵か味方か

M:顔(目)

大人って何でしょう？

O:自分以外の人を大切にできる人

M:誰かを守ることができる人

これからやりたいことはありますか？

O:襖絵を描く!!!

M:子作り

最後に一声

O, M: 子供の絵遊びの様な楽しい展示になっています。一般の方も参加できる企画もありますので是非見に来て下さい。

## 展覧会レビュー

リタ・マクブライド展：National Chain  
~99.12.18(土) / ギャラリー・ドウ

枠組みされた空間、その中にいる人々・・・。  
窮屈なのは現実だけで結構だと思っていた私には  
会場がひととき奇妙にみえた。

「National Chain」は天井建材で作られた四角  
い枠組みをいくつもつなぎ合わせたもので、肩位  
の高さに設置されているため、見る人は身体を屈  
めて動くことになる。

いざ足を踏み入れ、適当なところで顔を出す。  
また屈んで別の枠へ移動する。それが、多少の束  
縛感があるものの意外と窮屈ではないのである。

そもそも束縛感というもの動かないからまず  
まず強くなっていくのではないのだろうか。

今いる場所の居心地が悪くなる、考える。別の  
空間を求める、移動する・・・。その繰り返し。

結局枠は自分で生みだして壊していくもの。枠  
に気付くことで新しいパワーが生まれてくる。そ  
のことが大切なんじゃないか。リタの作品は一見  
閉鎖的にみえるが実は前へ開かれていた。

ギャラリー・ドウ

11:00~18:00 日、月、祝休み

目黒区柿の木坂2-10-17/Tel.03-3717-0020

東横線「学芸大学」下車、徒歩12分または  
東急バス「恵32」(恵比寿-用賀)「碑文谷香  
川」下車すぐ

## オジーアンドミツボエキシビジョン シンリンサンポ

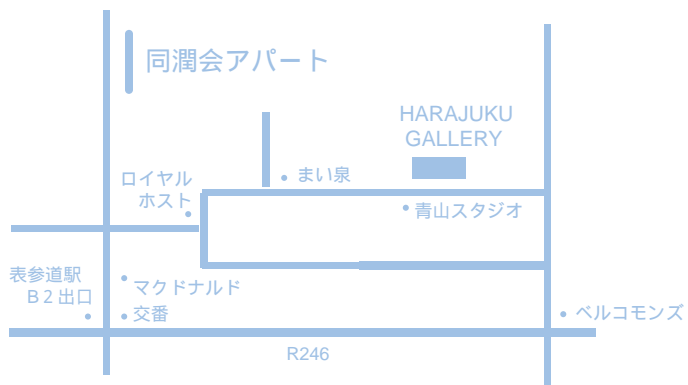
99.10.5(火)~10.17(日)/10.12(火)休廊

11:00~19:00(最終日17:00)

HARAJUKU GALLERY

渋谷区神宮前3-6-8サンライトビルB1F

Tel.03-3401-4025



\*最後に\*

「出会い」は人と人とのあいだだけじゃないのだと  
強く感じる今日この頃です。ではまた!



ART SPACE

\*

ファイヤーフライ

Vol. 03

artist

NORIKO OZAWA

REICO MITSUBOSHI